

平成17年度

## 病虫害発生予察特殊報 第2号

平成17年11月29日

茨城県病虫害防除所

Tel:029-227-2445

### スカッシュモザイクウイルスによるメロンモザイク病の発生について

病虫害名：モザイク病

発生物種：メロン

病原ウイルス：*Squash mosaic virus* (SqMV)

#### 1. 発生経過

- (1) 平成17年6月3日、鉾田市のメロンで濃緑斑点を呈した果実が発生した。本葉ではモザイク症状が認められた。
- (2) 農業総合センター園芸研究所において簡易検定を実施したところ、CGMMV、WMV-2、ZYMV、MNSV、CMV に対し、いずれも陰性を示した。
- (3) そこで、社団法人日本植物防疫協会研究所に同定を依頼したところ、本県では初確認の *Squash mosaic virus* (SqMV) によるモザイク病であることが確認された。

#### 2. 病徴

- (1) 果実では、濃緑斑点(写真1)を生じ、一部ネットが欠落することがある。
- (2) 発病初期は、幼葉がわずかに奇形になり、緑色の濃淡を生じる。本葉ではモザイク症状(写真2)および葉脈緑帯(写真3)を生じる。発病株の中・下葉は、奇形葉となることがある。

#### 3. 発生生態

- (1) 本ウイルスの自然条件での発生は、ウリ科植物に限られている。
- (2) 本ウイルスは、種子伝染、汁液伝染するほか、ウリハムシやオオニジュウヤホシテントウなどの甲虫類によって伝搬される。特に、種子伝染は第一次伝染源として重要である。

#### 4. 防除対策

- (1) 本ウイルスの第一次伝染源としては種子伝染が考えられるので、消毒済み(70℃、72時間乾熱処理)の種子を用いた健全苗を定植する。
- (2) 発病株を確認した場合は、速やかに抜き取りを行い、土中深く埋めるなどして処分する。手やハサミ等で汁液伝染する可能性があるため、管理作業時には十分注意する。
- (3) 本ウイルスを媒介するウリハムシ等の侵入を防止するため、施設栽培では開口部に防虫ネットを張る。また、ウリハムシが侵入した場合には薬剤散布による防除を実施する。



写真1 《果実の病徴》



写真2 《葉の病徴》



写真3

接種試験による  
苗の病徴  
(園芸研究所提供)